

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

**事業所名**

あしたりの家

日付 平成 21年 3 月 30 日

特定非営利活動法人

**評価機関名**

ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験15年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

自主評価結果を見る

評価項目の内容を見る

事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)

**1. 評価結果の概要**

**講評**

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今日は、クリスマス会であしたりの家グループ(グループホームあしたりの家と小規模多機能ホームゆったりあしたり)の利用者達が俳優になって(職員がプロデュースとアシスタント)「水戸黄門」を演じて、地域の人や家族の人をもてなすというので外部評価を兼ねて訪問させてもらった。このグループホームは3年前から、利用者と職員が一緒になって、演劇をして色々な人をもてなし、まさに笑い転げるばかりで訪問者を接待している。他のホームではボランティアの人が来て慰問するのが普通であるが、こころは全く逆である。認知症の人にこんなこと出来るの?と不思議に覆う人は多いと思うが、一つの演題を決めて、一年がかりで準備をして、半年がかりで脚本づくり、演劇のけいこを続ける。演劇セラピーの一つかも知れないが、こころの様子を見ていると、毎日を満足して利用者が暮らしているという実感である。それには職員の根気と忍耐も必要であるが、何よりも職員自身が楽しんで取り組んでいることだろう。

このグループホームは、平成14年9月に設立した。当時は北房町であったが、医師の作本医院が中心となり、現在の母体の社長夫妻や地元の関係者や作元先生のところの看護師が集まって、地域ぐるみで開設されたグループホームであり、色々曲折はあったもののちいきにしっかり根付いているグループホームである。そして平成20年5月に地元の多くの人々の強い要望に応え、小規模多機能ホーム“ゆったりあしたり”が開設した。そのホームの開所式で、来訪者や地域の人、家族を前に、初めて対外的に披露した演劇“花さかじいさん”を演じた。主演、助演の俳優さん、プロデューサー、ディレクターのシナリオライター等は利用者と職員、大道具と小道具担当も洋裁和裁の得意な利用者と職員の共同作業となったので、その準備に長期間をかけてした。そしてナレーター役や演劇のリハーサルまでに至る期間を利用者の皆さんが全員参加して、皆で目的をやり遂げるという活動はすごいものがあった。そして今日のクリスマス会には、小規模多機能ホームとグループホーム合同で「水戸黄門」の公演となった。このホームでは3回目の公演が出来た。

利用者の中で中心人物男性の利用者は「こんなことしておたらばうっとする暇がない。いつも皆で色々なこと出来るから幸せです。こんな暮らしはどこでもできない。また頑張ります」と笑顔を満面に浮かべて語ってくれた。

利用者と職員が一体となって、長時間準備と練習をして毎日毎日を、充実感を持って生活できるグループホームは類も見ないところだと思う。どんなに認知症になっても、観客を笑いに誘って、自分たちの満足できる味わいをさせることが現実出来るという、常識では考えられない事を実現していることは、認知症の常識をだはしたすごいことだと思う。

特に改善の余地があると思われる点

認知症の人の側にいる人が、自分の情熱を注ぎ、その人のために尽力つくせば何でもできることを世の中に知らせてあげて欲しい。このホームでの利用者への支援が人間の力の強さを証明してもらいたいと思う。

## 2. 評価結果（詳細）

### I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：理念に表している趣旨そのものが、演芸をしている利用者そのものであり、このホームの行動そのものである。</p> <p>2. 全体的に見て…：“生活感のある利用者本位の暮らし”を生で実践しているホームの姿である。そして利用者の有する能力に応じ自立した日常生活を家庭的な雰囲気の中で営むよう、利用者の自己実現を目指している。</p> <p>全体的には、この演劇を通して、利用者の表情が豊かになり、皆で出来たという満足感が一人ひとりの顔に表れている。演劇で主役を演ずる主役の人、ディレクター役で世話をした人、衣装を作ってあげた裁縫上手な人等、年々この利用者は若返っていくようである。それと、このような大きな事を成し遂げたことを覚えていることが、認知症と言われている常識を乗り越えている。</p>		

### II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：ハード面では、建物も設備も素晴らしい建物であり、周辺の環境も自然に満ちた環境で申し分ない。それ以上にこのホームの特長は、ここに生活している利用者が、このホームに完全に住み着いているという実感がある。利用者同士及び職員達との関係の中で、この利用者にとって、ここが一番の自分たちの住む所を提供しているソフト面がすごいホームと云える。</p> <p>2. 全体的に見て…：この地域で暮らしていた人が、このホームに年々多く集まってきた。そして小規模多機能ホームが併設された事で、ますます地域密着型の名の通り、地域に根付いた人、人、人で、地域の高齢者、認知症の人、生活に困った人等、人はすべて平等の豊かな社会を形成している。</p>		

### III ケアについて…：理念に表して

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

### III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：改善しなければならない点は特にないが、設立7年目に入ると、ホームのマネジメントとして介護計画の作成の及び記録等がホームの職員の業務として、もう少し効率的且つ業務に直結したシステムとして改良していかなければならないという意欲も出てきている。グループホームという認知症ケアの性格上から、少し実態に合ったシステムを考えていこうとしている。</p> <p>2. 全体的に見て…：利用者一人ひとりの持っている能力を伸ばしてあげている。ホームに習字の指導の先生が来て、年々習っている人の字を見ると、“すごい”と驚くばかりの成長振りで、展覧会で表彰してもらっている。絵手紙から始まった絵も年々絵が生きていると感じさせる上達ぶりに感動する。本人もすごく努力家であるが、これを支えているホームの職員の意気込みも、自分の事として応援している姿がすごい。</p>		

### IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
記述回答	<p>1. 自主評価について…：管理者と職員全てが、明るく仲の良いチームワークで利用者へ接している姿は、自然に利用者の心に伝わる。世話をしている感じではなく、同じ人間として、ホームの中で、一緒に生活しているという感じが、ホームに一步入れば伝わってくる。</p> <p>2. 全体的に見て…：グループホームと小規模多機能ホームは隣接して建てたので、機能としては共通出来るものがある。この地域では、このホームの開設した時に中心的にまとめた医師が、このホームの協力医でもあるが、現在は真庭市全体を医療と介護を一体化した都市にしていきたいと、行政をはじめ、あらゆる機関の人々が集まって地域挙げての認知症ケアのあり方について検討会を繰り返し、その目標が成熟しつつある。その起因のきっかけをこのホームも担っている。</p>		